

# ハンセン病（リデル、ライト両女史）

ハンセン病問題パネルの  
展示にあたって

「人と人の架け橋を求めて  
～ハンセン病問題から学ぶこと～」

うさぎ追いし かの山 しぶな釣りし かの川  
夢はいまも めぐりて 忘れがたき ふるさと (童謡「ふるさと」より)


私たち一人ひとりには、大切な故郷があります。そして、その大切な故郷には、帰ることができます。大切な故郷は、心の支えにもなり、傷ついた心を癒してくれます。

しかし、私たちの身のまわりには、この大好きな大切な故郷を追われ、大切な故郷に帰ることもできない、ましてや家族や親戚にも会えない人たちがいます。

1907（明治40）年から1996（平成8）年の「らい予防法」廃止まで90年近くの間、日本はハンセン病患者を強制的に隔離しました。療養所内の結婚の条件として断種・中絶を強要され、所長や療養所職員に反抗すると監房に入れられるといった人権侵害が行われてきました。さらに、隔離政策による人々の恐怖心から、その家族や親戚までもが、差別や偏見にさらされたため、療養所入所者は、大切な故郷にも帰れず、本名さえ名乗れないような状況にありました。

そこで、私たちは、ハンセン病という感染症を知らないことにより、偏見や差別を生み出したという反省から、少しでもハンセン病や回復者の方々について知ってもらい、このハンセン病問題についていっしょに考えていただきたいと思い、本特別展を企画しました。

2009（平成21）年4月より、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」（ハンセン病問題基本法）が施行されました。その法律の内容や理念を知っていただき、私たち一人ひとりに、互いの心の架け橋ができることを願っています。



人間性回復の橋と称される  
九十九島大橋（1999年）

（財）福岡県人権啓発情報センター  
第26回特別展 「人と人の架け橋を求めて ～ハンセン病問題から学ぶこと～」より

ハンセン病は、らい菌によって引き起こされる感染症です。当時、不治の病、うつる病気として、恐れられたハンセン病。国は隔離政策をとり、多くの患者の人生を奪っていった経緯があります。そのハンセン病に立ち向かっていった人をパネルで紹介。

1996年にらい予防法が廃止されましたが、その後も、ハンセン病元患者には、厳しい差別の現実が続いています。

B2：18枚

ハンナ・リデルは、イギリスの宣教師で、1895年熊本に熊本初のハンセン病病院（回春病院）を作りました。彼女が亡くなった後、妹ハンナ・ライトがあとを継ぎ、引き続き、ハンセン病患者の救済に尽力しました。日本のハンセン病の歴史に大きな影響を与えました。